

10/16 木

コロナ禍 高齢者の通所介護職員へ

定期的なPCR検討を

介護・障害福祉施設での新型コロナウイルス感染症の集団感染が各地で続いている。沖縄県立中部病院感染症内科副部長の高山義浩医師は、沖縄ではとにかく通所介護施設への警戒が必要だとして「職員への定期的なPCR検査の検討をすべきでは」と提起しています。

(西口友紀恵)

沖縄県立中部病院

高山義浩医師に聞く

7、8月に大流行した「多くは通所施設併設しており、入所者が雇用行期」として警戒を続けている。高山医師は、「特別養護老人ホームや通所施設、有料老人ホームなど高齢者施設における集団発生の支援に関わっています。ところが、県内の少ない有料老人ホームで新型コロナの発生がありました。

老人ホームや通所施設、有料老人ホームなど高齢者施設における集団発生の支援に関わっています。ところが、県内の少ない有料老人ホームで新型コロナの発生がありました。

通所介護の割合

所介護の割合（厚生労働省）

リスク直視 複合的支援必要



訪問診療中の高山医師（本人提供）

県内のあるダイヤサービスでは8月、利用者25%に対し沖縄県は31%と高い点を挙げ、「この『過密さ』が集団感染のリスクになっている。直視すべき課題だ」といいます。

リハビリなど感染リスク

英國の動向注視

一例えば、市町村が体調不良の高齢者の預かり先を別に確保する、感染症への専門的知識を持つ介護職の育成など、集団感染を防ぐために複合的な支援を考えるべきだと高山さん。複合対策の一つとして、地域で新型コロナが流行しているときは「通所施設の職員に対する定期的なPCR検査を検討すべきではないか」と話します。この点で高山さんが注目するのは、英国政府の取り組みです。同国では春の流行期に高齢者施設の入所者の死亡が2万人になりました。これでは、職員がコロナに感染するリスクが高い▽この施設は、家庭の介護力の問題から症状がある利用者も受け入れていて良心的な面もあったと高山さんはみていました。リスクは職員に集中している一などが分かりました。

この結果をもとに同政

府は7月から介護施設で働く職員にたいする毎週のPCR検査を実施。社会福祉大臣は「介護現場はパンデミックの最前線にあり、感染した場合のリスクの最も高い人々を支えている。彼らを守ることこそが国家の優先事項だ」と定期的検査の意義を語っています。

英國は再び大流行の渦中にあります。高山さんは「分析結果を読み、構造は沖縄とよく似ている」と思った。この間の通りくみがどういう結果についての「分析結果を読み、構